

標本館の表札



表札の岩石： 斑れい岩
 本体の登録番号：GSJ R34141
 ネームプレート：GSJ R34142
 表札のサイズ： 高さ 180 cm、幅 180 cm、厚さ 90 cm

玄関の手前左側に「地質標本館」と書かれた館名石があります。これは、筑波山の斑れい岩です。筑波山に登ると中腹から山頂付近にかけてこのような黒い岩石が見られます。この表札には石の一部分を切り取り磨いて、その中に別の斑れい岩に文字を彫ったネームプレートが貼り付けられています。筑波山で見られる斑れい岩は風化して表面が黒くなっていますが、このネームプレートの周りの削り込まれて磨かれた部分を見ると本来の岩石の色を見ることができます。

筑波山の中腹より低いところは花崗岩が分布しています。地質標本館前の駐車場入口交差点には筑波山北方の笠間市で採取した稲田花崗岩が置かれています。東大通りに面した正門脇の石柱も稲田花崗岩であり、筑波山の花崗岩（筑波花崗岩）とともに筑波山塊を形作っています。

斑れい岩や花崗岩は、マグマが地下深くでゆっくり冷えて固まった深成岩です。急激に冷えて固まった火山岩に比べて岩石中の鉱物の粒が大きくなります。花崗岩は斑れい岩に比べ風化しやすく浸食が早いのですが、筑波山では山頂付近に浸食されにくい斑れい岩が露出しているため、緩やかな山麓部の上にそびえる急峻な山頂部として残ったのでしょう。

(地質標本館室 高橋誠)